

生きものがいっぱい・バッタ広場で生きものたんけんをしよう

～都立赤塚公園 赤塚城址広場～

■プログラムの概要

ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 赤塚公園赤塚城址広場のバッタ広場にくらす生きものたちの様子をたのしんでそっと、観察する。 学校や近所の公園で見られなくなったカマキリ・ショウリョウバッタ・コガネムシ、テントウムシ、トンボ、チョウ、クモ、いも虫、カナヘビ、たまご、木の実などを観察し、生きものと植物・生きものと生きものは、関係して生きていることに気づく。（生態系の学習の第一段） いきものがすみ続けるために必要なもの（かんきょう）は何かを考え出し合う。 校庭や公園で、生きものがすみつけられるために、自分たちができることはなにかを考えるきっかけにする。 		
キーワード	いきもの、身近な自然		
対象	幼児～中学校、一般		
時間	幼児60分、小90分、中100分	実施場所	校庭・公園・バッタ広場
使用するもの	探検バック、紙芝居、生きもの探検カード、ふりかえりカード、シール、合図用太鼓、敷物、バンダナ、筆記用具、飲みもの、帽子、汗拭き		
全体の流れ	<ol style="list-style-type: none"> あいさつ・導入 紙芝居「原っぱのかくれんぼ大会」の読み聞かせ 観察ルールの説明 バッタ広場探検 いきもの発表会 質問タイム まとめ 今日のねらいについてわかったこと考えたこと 		

■進め方 全体を2単位時間扱い（100分+休憩10分）とした例 網掛け一保育園50分扱い

時間	学習内容	指導上の留意点
5分	<p><あいさつ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・赤塚公園～赤塚城址の環境について ・トイレの場所など 	<ul style="list-style-type: none"> ・安全のために、児童の服装は長袖、長ズボン、運動靴。帽子、水筒も必要。
15分	<p><導入></p> <ul style="list-style-type: none"> ・バッタ広場の場所の説明 <p>?ここはどういう場所か。東京の中で板橋の中で。なぜここに来たか。</p> <p><紙芝居></p> <p>「原っぱのかくれんぼ大会」の読み聞かせ</p>	<p>～広場の一角にブルーシートを敷く～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・簡単な導入。 ・武蔵野台地の北端にできた崖線と緑の上の低台地にあるバッタ広場の説明
10分	<p><観察ルールの説明></p> <ul style="list-style-type: none"> ☛そっと観察・生きものの生活をおどかさな ☛ゆっくり歩いてあんぜんに観察 ☛生きものと生きものが、いた場所の植物などの様子を観察 ☛赤いりぼんがついた危険な枝にさわらない、ふまない ☛同じ生きものでも見つけた回数だけシールを貼れる。グループみんなで確認。 	<p>広場に座って聞く。生きものが自分の命を守るために、真剣に生きる場所を選んでいるということを説明。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・トンボ類、チョウ類、バッタ類、くも類、小さい虫類、甲虫類、は虫類など ・よくよく見ないと見つからない。見えるのに見えないなど。
30分	<p><バッタ広場探検></p> <p>探検隊出発～観察、シール貼り、落ちているたからものなど</p>	<p>参加団体ごとに、グループ編成</p> <p>例 4人組の役目例</p> <p>①隊長、発表係 ②たんけんカード</p> <p>③シールかかり ④宝物係</p>
10分	<p>トイレと休憩</p> <p>トイレに行かない人は、広場で小遊び</p>	<p>ため池公園のトイレ使用</p> <p>引率者が必要</p>
10分	<p><いきもの発表会></p> <p>ふりかえり感想を共有する。</p>	<p>児童の人数により、学級毎に分けるなど工夫する。</p>
15分	<p>(全体集合)</p> <p><質問タイム></p> <p>例?どうしてここには生きものがたくさんいるのか。</p> <p>?～アカボシマダラなどの生態の話～生きものはどんな場所で育っていくのだろう。卵～幼虫～さなぎ～成虫</p> <p>?バッタ広場の周辺など、生きものと植物、樹林の関係を考える。</p> <p>?生きものが生き続けるために、この場所や、周りの環境で必要なこと</p>	<p>〇いたばし水と緑の会の方のお話し</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バッタ広場の生きものと植生の話 ・生きものと生きものとの関係 <p>※いたばし水と緑の会のお話は、NPO法人センスオブアース（共催：いたばし水と緑の会）の出前授業で行う場合には、実施可能。</p>

10分	<p><まとめ> 今日の観察学習を通して気づいたこと・わかったこと・考えたことを発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生きものと植物との関係について ・いきものといきものとの関係について ・これから私たちにできることは何か 	<p>区民一人一人が、ヒトと同じように生きものが生きられるように、赤塚城址バッタ広場など地域の自然を増やす、生きもの観察をする、草やビオトープを増やすなどの意見が考えられる工夫をする。</p>
5分	終わりのあいさつ・お礼	

■使用するもの

物 品 名	数 量	備 考
探検バック	班ごと1つ	場合によっては全員が持つ。
紙芝居		「はらっぱのかくれんぼ大会」
生きもの探検カード	班ごと1枚	
ふりかえりカード	1人1枚	
シール	班ごと30枚	色・形は自由。各班へ事前に渡しておく。
生きものスケッチ	班ごと1枚	書ける場合。どんな場所にいたかも書く。
太鼓など	1つ	教師用。集合の合図に使う。
宝物入れ（ハンダナ）	班ごと1枚	学校があれば活用。なければ、家庭から持参するなど。
飲み物（水筒）	各自	
動きやすい服装 帽子・汗ふき	各自	安全のため服装は長袖・長ズボン・運動靴が望ましい。
デジカメ・虫眼鏡	裁量	可能な範囲で用意する。虫眼鏡は班で1つなど。
敷物ブルーシート	2枚	荷物置き用（6畳敷くらいの大きさ） 雨の後でなければ使用しなくても実施できる
救急バック	1つ	学校などから持参。

■実施にあたって留意する点

- ・本プログラムを実施する場合は、5月～11月（前半）が望ましい。（冬季は、バッタ広場に生息する虫が少なくなるため）
- ・時期（5～6月頃が多い）によっては、蛇（アオダイショウ）が出てくることもあるが、蛇を見かけても、何もしなければ逃げていくので、おどかしたり、棒でつついたりしない。
- ・バッタ広場内の木の枝などで擦り傷・刺し傷などの対策のため、長袖・長ズボン・帽子・運動靴の着用が望ましい。また、擦り傷、刺し傷などの予防指導と救急箱などの手当の準備は必須。
- ・学校内でも都立赤塚公園のバッタ広場のような環境を作るために学校の一角に草を刈らない場所（野草広場）を確保できると学校でも本プログラムを活用できる。

<都立赤塚公園赤塚城址広場へのアクセス>

- ・場所：板橋区赤塚5丁目（バッタ広場は、都立赤塚公園内 赤塚城址広場 ため池公園の山の山の上）にある。
- ・交通手段：都営三田線 西高島平駅 徒歩10分程度

<学校などの授業で実施する場合>

- ・単独のバッタ広場実施の場合、往復移動の時間を配慮する必要がある。
- ・遠足など、野外教室として扱う場合、その時程の中で、60分～90分を組み込むことができる。赤塚公園などで、環境学習を組み込んで遠足を実施している例もある。赤塚城址は幼児や低学年の遠足などで活用されてきている。
- ・郷土資料館、美術館に見学に行くなどに組み合わせて、バッタ広場を活用することなどの可能性の検討もできる。3年生の社会の郷土資料館見学を2学期などに取り入れて、生きもの観察と組み合わせる方法もある。1時間目移動・2時間目郷土資料館・3～4時間目バッタ広場・お弁当持参・移動など。

■参考資料

- ・赤塚公園のバッタ広場の地図
- ・赤塚公園のバッタ広場について
- ・シェアリングアース会報に掲載されたバッタ広場の記事